

第1回 進路説明会



三鷹の森学園 三鷹市立第三中学校

生徒：令和8年6月23日(火)

保護者：令和8年6月26日(金)

保護者・生徒 兼用資料

3年 組 番 氏名

目 次

はじめに	1～2
1 今後の3年生の進路計画	3
2 卒業後の進路の方向	4～6
① 就職	
② 都立職業能力開発センター	
③ 専修学校・各種学校	
④ 高等専門学校(高専)	
⑤ 高等学校(高校)	
⑥ サポート校(通信制高校補習校)	
⑦ 特別支援学校高等部	
3 都立高校と私立高校の違い	7～8
※推薦について「三鷹市立第三中学校[校内推薦基準]」	
4 都立高等学校の入試制度について	9～10
(1) 都立高校の入試の種類	
(2) 選考方法について(都立高校総合得点)	
5 私立高校の入試制度について	11～12
(1) 私立高校の入試の種類	
(2) 選考方法について	
6 評価・評定の出し方	13～14
7 奨学金について	14
8 ESAT-Jの申し込みについて	14
9 進路決定に向けて	15～17
(1) 調べる	
(2) 学校に行く	
(3) 具体的に学校名を絞る際のポイント	
〈資料1〉都立高校等の種類と内容	18～21
〈資料2〉進路先一覧(過去2年間)	22
〈資料3〉奨学金や教育費の助成制度について	23～24

はじめに

・三鷹市立第三中学校の取り組み

三鷹市では、変化の激しいこれからの社会を生きるために、チャレンジ精神や創造性を発揮しながら、新しい価値と社会を創造していこうとする起業家がもつような意欲と能力を養うアントレプレナーシップ教育と、勤労観・職業観とともに自己の個性を理解し、主体的に将来を選択していく態度を育むキャリア教育の要素をあわせたキャリア・アントレプレナーシップ教育の推進を図っています。(三鷹市教育ビジョン2027より)

本校では、そのために、働くとは何かといった勤労観・職業観の育成から具体的な進路決定まで、三年間を通した系統的な進路学習を行っています。また、1年時には「職業人の話を聞く会」、2年時には「職場体験」、3年時には「高校出前授業」で、外部機関と連携しながら、進路学習を進めてきました。今年度の3学年は、2年時に「上級学校訪問」を行うこともできました。また、2年生から1年生への「職場体験報告会」や3年生から2年生への「進路体験報告会」といった、学年をまたがった報告会も実施しています。

これまでの進路学習で学んだことや自分自身について理解したことを整理して、よりよい進路を切り拓いていきましょう。

・生徒のみなさんへ ～進路の考え方～

(1) 自分の力で

①「目的意識」をもつ

あなたはどんな人ですか。好きなことは何ですか。何に興味や関心がありますか。進路を決めるにあたって、自分自身を知ることは何よりも大切です。学力だけで判断せず、自分に合った進路選択を意識していきましょう。その先の人生をイメージしてみるのも大切です。周りの人の言葉にとらわれ、何となく流されるままに進路を決めるのではなく、その進路先へ進んだ後の自分を思い描いてみましょう。実際にそこに行くのは他の誰でもない、あなた自身です。あなたにとって最適な進路決定になるように、自分のことをよく見つめ、将来を考え、「目的意識」をもって進路選択をスタートしましょう。

②自分で探す

自分の進路は自分で探しましょう。もしかしたら、周りの人からいろいろ勧めてもらえるかもしれませんが、中学校からも、進路だより等で適宜情報を発信します。しかし、情報を与えられるのを待たないでください。中学校に届いている情報はパンフレット等、ほんの一部です。情報は自分で集め、自分で確認するのが一番です。家族や知人の母校、先輩が通学している高校、家から近い高校、興味のある活動に特化した高校など、インターネット・本・ポスター・パンフレット等から積極的に情報を集めてみましょう！

③自分から相談する

今、考えていることを家族とよく話しましょう。「察してほしい」、「言わなくても先回りして保護者の人が何とかしてくれる」といった人任せの形ではなく、みなさん自身が主体的に動いていきましょう。学校説明会の申し込みなどをはじめ、今後保護者の方に協力していただくことがたくさんあります。「どうするの?」と聞かれる前に、自分から話をしてください。また、担任の先生にもこまめに報告をしてください。「説明会で気になる学校があった」、「今こんなふうに考えている」等、早めに伝えると周りの大人はサポートしやすいです。

(2) 仲間と支え合って

① 真剣に頑張る雰囲気づくりを

大切なのは日々の学習です。クラス全体で真剣に授業に取り組みましょう。「受験は団体戦」とも言われます。一人ひとりが日常の当番活動を地道に頑張ったり、行事に積極的に取り組んだりといった、集団として共に頑張る雰囲気が大切です。どんなことにも真剣に頑張れるクラスの雰囲気を作っていきましょう。

② 温かい気持ちで

一人ひとりに個性があるように、それぞれが希望する進路は異なります。もしかしたら、あなたの「第二希望」が誰かの「第一希望」かもしれません。それぞれの進路を温かい気持ちで応援しましょう。不用意な言葉で誰かを傷付けることのないようにしてください。最後の一人の進路が決まるまで励まし合い、温かい気持ちで学校生活を送りましょう。

様々な面で、プレッシャーのかかることが多い一年になると思います。いつもの友達といつもの日常を大切に過ごす安心感の中で、進路への意識をお互いに高め合っていけるといいです。深刻に思い詰めるのではなく、温かく支え合う雰囲気を大切にしながら、一つ一つ乗り越えていきましょう。

進路に関する情報発信は「進路だより」を基本に考えています。進路に関する提出書類がある場合も、進路だよりに記入の仕方等を載せていきます。重要な内容が多くなりますので、配布されたら必ず読むようにしてください。学校のHP「進路関係」でも公開しています。また、この進路説明会の冊子資料も、本校HPにて公開しています。下記二次元コードから確認できます。

また、各学校からのお知らせ（パンフレット等）や合同説明会のお知らせ等は、1階生徒昇降口前のホールにある進路コーナーや、各クラスにある進路BOX、「進路 学年掲示板 R8」というクラスルームから見るができます。

また、進路に関する書類は、保護者の確認のもと、基本的に生徒のみなさん自身が記入するようにしましょう。家庭と学校との進路に関する重要な書類のやり取りには、第一回進路希望調査でも使用した、専用の封筒を活用していきます。この封筒はビニールパッカーに入れて使います。大切に扱ってください。



I 今後の3年生の進路計画(予定)

※ご家庭にご協力いただくものには「○」が付いています。

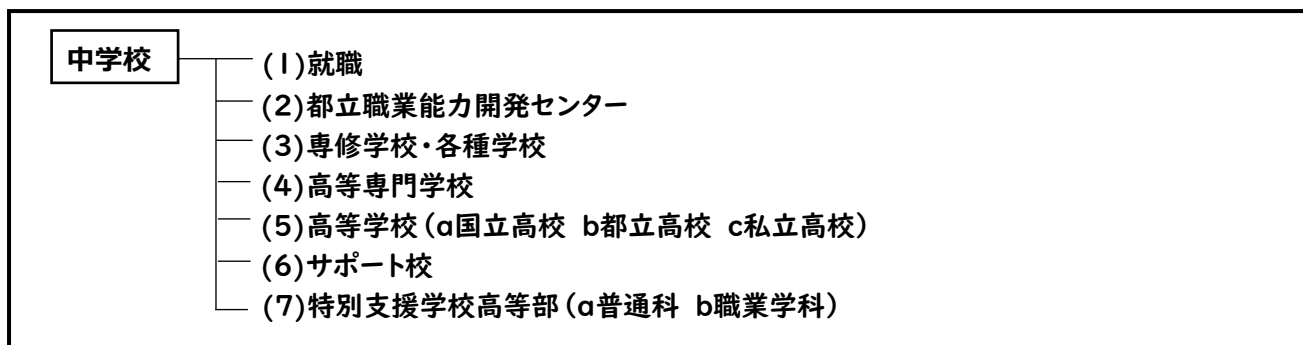
※進路希望調査の内容を三者面談で確認します。

※復習確認テストは自分の学力を知るための参考にしてください。得点を面談の資料にします。

月	主な予定	進路希望調査	復習確認テスト
5月		○第1回進路希望調査(済) 【主な調査項目】 ・自分の将来についてどう考えているか ・進学、就職の現時点での意向	
6月	・1学期期末考査 ○第1回進路説明会(本日)		
7月	・高校出前授業(7/3) ○第1回三者面談(7/21~7/29) 目標実現に向けたこれからの取り組み、夏休みの過ごし方など。 ○上級学校訪問および説明会参加など	○第2回進路希望調査(7月初旬頃) 【主な調査項目】 ・進学、就職の現時点での意向 ・現時点で学校推薦を希望するか ・現時点で考えている学校(課程、学科など)	・第1回 復習確認テスト (7/1)
8月	○上級学校訪問および説明会参加など		
9月	・2学期中間考査(9/24・9/25)		・第2回 復習確認テスト (9/1)
10月	○第2回進路説明会(10/19) ○第2回三者面談(10/26~10/30) 具体的な志望校について 推薦制度の利用希望について	○第3回進路希望調査(10月中旬頃) 【主な調査項目】 ・上級学校進学希望(具体的な学校名・コース・入試区分等) ・就職希望	・第3回 復習確認テスト (10/20)
11月	・2学期期末考査(11/11~11/13) OESAT-Jスピーキングテスト(11/22) ○このあたりから受験写真準備を!(希望者は学校で撮影可能です)	○第4回進路希望調査(11月中旬頃) 【主な調査項目】 第3回と同様(評定が予想より上がった場合、下がった場合の受験予定校を記入する欄あり)	
12月	○第3回三者面談(11/30~12/4) 志望校(推薦等を含む)決定 ○推薦・併願優遇依頼書等提出 ○調査書作成願い提出 ・私立高校入試相談(教員)		
1月	☆私立高推薦入試 ☆都立高推薦入試		
2月	☆私立高一般入試 ☆国立高入試 ☆都立高一般入試一次・分割前期 ・学年末考査(2/24~2/26)		
3月	☆都立高一般入試二次・分割後期 ☆都立高一般入試定時制二次		



2 卒業後の進路の方向



(1)就職

都内の公共職業安定所（ハローワーク）を通して就職する場合は、「中学求人一覧表」の中から希望の事業所を見つけ、応募・選考を受けます。選考は主に面接ですが、適性診断テストや簡単な筆記試験を行うところもあります。縁故や家業を継ぐ等職業安定所を通さない場合もあります。希望のあるご家庭は、早めに学校に相談してください。

(2)都立職業能力開発センター

就職を目指し、職業に必要な知識技能を習得する施設です。高校卒業者や一般の人を対象としたものの方が多いですが、推薦入校選考Ⅱ（中学校卒業見込み者）があります。

(3)専修学校・各種学校

専修学校は、職業もしくは実生活に必要な能力を育成すること、教養の向上を図ることを目的としています。修業年限は1～5年。専門資格をとりながら大学受験資格を取れる学校や、高等学校卒業資格を取れる高等専修学校（この場合通信制の高校にも籍を置くことになります。修業年限は3年です。）もあります。野田鎌田学園杉並はこのタイプの学校です。

(4)高等専門学校（高専）（修業年限5年間…現在、東京には3校）

すべて工業系の学校で、修業年限を5年間としています。卒業後に大学3年生（一部の大学では2年生）に編入することが可能です。

＊都内にある高専

国立東京工業高等専門学校／都立産業技術高等専門学校／サレジオ工業高等専門学校（私立）
--

(5)高等学校（高校）

①課程別の高校の種類

○全日制課程…朝から午後までの日中に授業があります。

○定時制課程…夜間、その他定められた時間帯に授業があります。

※いわゆる「夜間高校」のみでなく、一日をいくつかの時間帯に分ける「昼夜間定時制」が増えています。

○通信制課程…自宅等で学習し、レポートなどの添削指導を受けながら、定められた日に登校し、指導を受けます。

※毎日登校することを基本とする通信制高校もあります。週1日～登校日数を自分で決められたり、教室やクラス、部活動、行事等があったりする学校も増えています。

②学年制と単位制

○学年制…学習する教科・科目が学年ごとに定められており、その学習成果が認められると単位が与えられ、次の学年に進級する制度です。全日制は3年、定時制は4年（一部は3年）を修了すると、卒業が認められます。

○単位制…学級全員で同じ授業を受けるのではなく、3年間（または4年間）の中で必修（必履修）科目の他に自分に適した教科・科目を選択し、卒業に必要な単位数を取得すれば卒業できます。（大学や短期大学のようなシステムです。）

※全日制課程では都立高校に多く、国分寺高校や新宿高校といった普通科の高校や、杉並総合高校などの総合学科・チャレンジスクールが単位制です。また、通信制課程は基本的に単位制の学校です。

③男女別

○共学校………基本的に男女一緒に授業を受ける学校。都立高校はすべて共学校です。

○別学校………男女とも在学しているが、校内が男子部・女子部に分かれ、授業・施設が男女別になっている学校。学校によって一部行事は合同でやることもあります。

○男子校・女子校…男子のみ、女子のみを募集する学校。

※最近では共学化する学校が増える傾向にあります。

④学科

学科の種類は、普通教育を主とする学科（普通科）、専門教育を主とする学科（専門学科）、普通教育及び専門教育を総合的に学習する学科（総合学科）の3種に大きく分けられます。

※いろいろな学科（都立高校の例）〈巻末 資料1参照〉

1 普通科	7 ビジネス科・商業科	13 福祉に関する学科
2 普通科（コース制）	8 ビジネスコミュニケーション科	14 理数に関する学科
3 農業に関する学科	9 情報に関する学科	15 芸術に関する学科
4 工業に関する学科	10 産業科	16 体育に関する学科
5 工業に関する学科（デュアルシステム科）	11 海洋国際科	17 国際関係に関する学科
6 科学技術科	12 家庭に関する学科	18 総合学科
		19 併合科

⑤設置者の違いによる種類

○国立高校…「国」が設置した高校で、都内には6校あります。私立大学の附属高校とは違い、大学への優先入学のような特典はない場合が多いです。

※都内にある国立高校

お茶の水女子大学附属高等学校	東京科学大学附属科学技術高等学校
筑波大学附属高等学校	東京学芸大学附属高等学校
東京藝術大学附属音楽高等学校	筑波大学附属駒場高等学校

○都立高校…「東京都」が設置した高校です。基本的な受検資格は「都内に保護者と同居し、入学後も引き続き都内から通学すること」となっています。中学卒業後、都外に転出予定の人は受検できないので気をつけてください。

※保護者の転勤に伴う転居などにより都立以外の公立高校を受検する場合、またはその可能性がある場合は、早めにご連絡ください。受検方法等が都道府県により大きく異なります。

※都立高校には、「チャレンジスクール」という、主に小・中学校で不登校の経験があったり、高校で中途退学を経験したりして、これまで能力や適性を十分にいかしきれなかった生徒が、自分の目標を見つけ、それに向かってチャレンジする学校があります。昼夜間定時制の総合学科で、4年間で基本です（3年間で卒業も可）。少人数のきめ細かい指導によって中学校の復習にも対応し、コミュニケーションや社会性を育てたり、ホームルー

ム活動や相談活動を重視したりと、先生と生徒の触れ合いや生徒同士の交流を大切にしています。(桐ヶ丘・世田谷泉・大江戸・六本木・稔ヶ丘・小台橋・立川緑)

※都立高校には「エンカレッジスクール」という、小・中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援しながら、勉強や学校行事・部活動などを通して学校生活を充実させる全日制の学校もあります。二人担任制で、1 年次は 30 分授業、少人数制・習熟度別授業の導入、キャリアガイダンス授業といった独自の教育を行っています。(足立東・秋留台・練馬工科・蒲田・東村山・中野工科)

○私立高校…民間(学校法人)が独自の理念や方針に基づいて設立・運営している高校です。教育方針、校風、設備、宗教など特色に大きな違いがあるので、学校見学、説明会の参加が重要です。進んで参加し、できるだけ具体的かつたくさんの情報を集めてください。

大学の附属高校も多くありますが、その大学への進学状況は学校ごとに異なります。附属大学への進学率が高い学校でも、成績上位者から希望する学部優先的に振り分けられることが多いので、注意が必要です。

(6) サポート校(通信制高校補習校)

学習場所の提供や、レポート作成の援助など、私立通信制高校の生徒をサポート(援助)する民間の教育施設です。進路指導や生活指導、課外活動やカウンセリング等がある学校もあります。サポート校のみでは高校卒業資格を得ることはできず、私立通信制高校と同時に在籍することになるので、一般の高校よりも学費が多くなる場合があります。

(7) 特別支援学校高等部

子供の発達保障と将来の自立を見据え、特別支援学校を進路選択の一つとして考え、志望する人も増えてきています。ここでは主な応募資格について述べておきます。興味のある人は早めに学校に相談してください。入学条件・入学相談日程等注意が必要です。

① 普通科

○応募資格…障害のある者(視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・知的障害・病弱や身体虚弱)

⇒それぞれに対応した支援学校に応募することになります。また、その障害の程度を証明できるものが必要となります。

- ・視覚障害特別支援学校……身体障害者手帳の写し(または医師診察記録)
- ・聴覚障害特別支援学校……オーディオグラムか身体障害者手帳の写し(または医師診察記録)
- ・肢体不自由特別支援学校……身体障害者手帳の写し(または医師診察記録)
- ・知的障害特別支援学校……愛の手帳(療育手帳)の写し(または医師診察記録)
- ・病弱特別支援学校……身体障害者手帳の写し(または医師診察記録)

※7月頃からそれぞれの学校で、入学相談、事前の面接が始まります。出願の前に相談をしておくことが望ましいです。

② 職業学科(就業技術科・職能開発科)

○応募資格… ・知的障害がある者

- ・高等部職業学科の教育方針の下、学校生活を有意義に過ごすことができ、将来、企業への就労を目指す者 等

※志願者および保護者は、入学願書受付までに、志願する就業技術科及び職能開発科設置校の個別説明を受けなければなりません。

- ・就業技術科(永福学園・青峰学園・南大沢学園・志村学園・水元小合学園)
- ・職能開発科(港特別支援学校・足立特別支援学校・江東特別支援学校・東久留米特別支援学校、青鳥特別支援学校、練馬特別支援学校、八王子南特別支援学校)普通科と職能開発科の併設

3 都立高校と私立高校の違い

	都立高校	私立高校
教育方針	東京都教育委員会の教育方針に基づくが、独自の特色を打ち出す学校が増えている。	各校が「建学の精神」をもっており、独自の理念に基づいた教育を行う。(独自の授業や行事、宗教教育など)
学校生活	男女共学 学年による生徒数の差はあまり生じない。	男子校、女子校、共学校 学年によって生徒数に大きな差が生まれることがある。
学習	普通科の他に、様々な専門学科がある。	普通科が多いが、英語コース、進学コース、情報処理コースなど、様々な特色がある。中高一貫校は系列中学校から進学してきた生徒と一緒に学ぶことになる。
進路	それぞれの学校で多様な進路に対応した指導が行われている。大学への指定校推薦をもっている。	進学向けのカリキュラムを組む学校や、大学の附属校で、系列の大学に優先入学できることがある。ただし、優先条件は様々で、希望の学部に進学できるとは限らない。
学費	学校によって異なるが、都立高校の方が安い。学費のうち、授業料はどちらも無償化(私立は平均額である約50万円のみ助成。平均以上の授業料の学校は差額を支払う必要がある)。制服代や教材費、修学旅行費等、授業料以外にも必要となるので注意が必要。 *各種奨学金制度等に関する巻末資料あり。〈資料4〉	

推薦入試について ※次ページに詳細あり

*試験日	令和9年1月26日(火)・27日(水)	例年だと1月22日が多い
*高校側の出願条件	・志願する都立高校を第一志望とする者 ・12月31日現在、都内の中学校に在籍し、3月に卒業見込みの者 ・中学校長の推薦を受けた者 ・都内に保護者と同居しており、入学後も都内から通学できる者	・志願する私立高校を第一志望とする者 ・中学校の成績、出欠などが、その学校独自に定める基準に達していること 例☆「9教科の内申が合計〇〇以上」 ☆「内申に2がないこと」 ☆「年間の欠席が〇日以内であること」
*選抜方法	調査書と個人面接、作文または小論文、実技テスト、集団討論(学校による) 高倍率になることが多い。	多くが面接と作文だが、面接だけの学校、適正検査も行う学校など様々。 事前に中学校との入試相談を行う学校が多く、基準に達していれば、合格の可能性が高まる。(基準をただの出願資格とし、当日点で選考を行う学校もある)

一般入試について

*試験日	◇一次(分割前期) 令和9年2月21日(日) ◇二次(分割後期) 令和9年3月 9日(火) ◇海外帰国生選抜 令和9年2月15日(月)	都内 2月10日～12日 他県 1月下旬～2月初旬
*選抜方法	学力調査の得点と内申点を一定の割合で合計し、スピーキングテストの結果を足して合否を決めるところがほとんど。面接等を実施するところもある。	入学試験、面接、調査書の総合成績で決定するが、入学試験と面接試験を重視する学校が多い。(一教科でも一定の点数を満たさないと、不合格になる学校もある) 学校によって、第一志望優遇、併願優遇などさまざまな制度がある。
*試験科目	5教科(国数英社理)の学校が多いが、3教科(国数英)や、作文などを書く学校もある。共通問題を使用する学校と自校作成問題を使用する学校がある。	3教科(国数英)と面接が多いが、作文を書く学校もある。それぞれの学校が独自の問題を出題する。学校によって傾向、形式が異なる。
*入学手続	合格発表の翌日まで	合格発表後数日間だが、都立の一次合格発表日まで待つところもある。延納届が必要になることがある。

※推薦入試について

推薦入試とは、高等学校が生徒を募集する際に、優れた能力や適性、高い意欲を備えた人物を選抜するために、高等学校側が求める基準(※1)を満たし中学校長の推薦(※2)を受けた生徒を対象に、実施する入試です。国語や数学といった教科のペーパーテストではなく、調査書点(内申点)、面接、作文、実技検査、適性検査などによって合否を判定します。全ての都立高校と、約9割の私立高校で実施しています。推薦入試は「第一希望」が前提であり、合格した場合は必ずその学校へ進学することが条件となります。

○「高校側が求める基準(※1)」

都立高校の場合は以下のような基準です。(『令和8年度東京都立高等学校募集案内』より)

次の(1)～(3)までの全てに該当し、志願する都立高校を第一志望とする者。

- (1) 12月31日現在、都内の中学校に在籍し、3月に卒業見込みの者
- (2) 中学校長の推薦を受けた者
- (3) 都内に保護者と同居しており、入学後も引き続き都内から通学することが確実な者

私立高校の場合は学校によって異なります。以下は一般的な例です。

【例】 次の条件の(1)～(5)の全てを満たす者。

- (1) 本校への入学を第一志望とする者
- (2) 3月に中学校を卒業見込みの者
- (3) 人物が良好で、中学校長が推薦する者
- (4) 3年次の成績が5科合計〇〇以上 または 9科合計〇〇以上であること
- (5) 3年間欠席〇〇日以内、かつ3年次においては〇日以内であること

自分の志望する学校の基準をよく確認しましょう。基準は変わることがあるので、今年度の要項や説明会等で確実な情報を集めてください。スポーツや文化系の推薦については、特殊な動きになることがあるので、各校の詳細を早めに調べておきましょう。部活動推薦であれば、まずは顧問の先生に推薦入試を希望している旨を伝えてください。また、外部の習い事やクラブチームでは、その指導者の方から情報を貰える場合もあります。スポーツもしくは文化系の推薦入試を考えていることを指導者の方に伝えておきましょう。その他、音楽系の学科を受験する場合は、音楽科の先生に相談をしてください。

○「中学校長の推薦(※2)」

本校では、生徒本人の志望に基づき、以下の推薦基準に照らして校内推薦委員会が検討し、校長が決定しています。

以下のような中学校生活を送っている生徒を推薦する。

なお、一時的な事象のみで判断せず、継続的な状況をもって判断する。

- (1) 学習態度が良好で、きちんと授業を受けている生徒
- (2) 基本的生活習慣を身に付けており、出席状況が良好である生徒
- (3) 委員会や係活動、学校行事、部活動、ボランティア活動などに積極的に参加している生徒
- (4) 社会や学校のルールを守って生活している生徒
- (5) 合格後、進学後も推薦された者としてそれにふさわしい学校生活を送ることのできる生徒

～推薦の手順～

①推薦の希望を担任に申し出て、依頼書を貰って提出(12月上旬予定)

※推薦を希望する生徒は、10月、12月の面談で担任に申し出てください。

②校内推薦委員会で検討

③学校長による決定

第三中学校の推薦基準に書かれていることは、特別なものではなく、全ての生徒が目指すべき姿と考えてください。(出席状況について、体調面等の事情がある場合は除きます。)決して、「推薦されるためだけに一時的に頑張る」、という場当たり的なものにせず、推薦基準を「きっかけ」にして、自分の生活面を見直し、成長につなげていきましょう。

4 都立高等学校の入試制度について

(1) 都立高校の入試の種類 都立高校の入試には、大きく分けて次の2つの選抜があります。

推薦に基づく選抜 (推薦入試)	一般推薦	文化・スポーツ等特別推薦	理数等特別推薦
学力検査に基づく選抜 (一般入試)	第一次募集・分割前期募集	第二次募集・分割後期募集	

(2) 選考方法について

① 推薦入試

推薦に基づく入試には、「一般推薦」と「文化・スポーツ等特別推薦」「理数等特別推薦」があります。推薦枠は、学科により募集人数全体のうちの何%まで募集できるかが決められています。例年、普通科は20%の学校がほとんどで、専門学科は科によって30%~40%となっています。

第一志望が条件なので合格の場合は必ず進学することになります。

○文化・スポーツ等特別推薦

…特定の種目で卓越した能力をもった生徒に対して行われる入試。文化系では吹奏楽、英語、美術、書道等があり、スポーツ系では野球、バスケットボール、バレーボール、サッカー、バドミントン、陸上競技、ラグビー、ダンス等があります。「文化・スポーツ等特別推薦」と同時に、同一校の「一般推薦」にも出願することができますが、その場合には一般推薦の検査も受検することになります。

○理数等特別推薦

…理数等特別推薦に志願する意思があり、在学している中学校長の推薦を受けた生徒が応募できます。研究についてのレポートに関する口頭試験、個人面接及び小論文を組み合わせで実施します。立川高校と科学技術高校の総合技術科で実施されています。

② 一般入試(第一次募集・分割前期)

学力検査・調査書の点数(英語スピーキングテストを含む)を用いて総合的に合否を判断します。面接・小論文・作文・実技検査を実施する高校もあります。(チャレンジスクールでは、学力検査を行わず、志願申告書、個人面接及び作文の各点数を総合した成績で選考を行います。エンカレッジスクールでは、学力検査は行わず、調査書(観点別学習状況の評価)、個人又は集団面接、小論文または作文及び実技検査の各点数を総合した成績で選考を行います。)

学力検査は5教科(国数英社理)の学校が多いですが、3教科(国数英)の学校もあります。5教科実施の高校の中には、理科と社会のみ共通問題を使用し、国語・数学・英語は難易度の高い自校作成問題を使用する学校があります。また、調査書点には、換算内申を用います。例を挙げて見てみましょう。

(例) Aさん 各教科の評定→国(3)社(3)数(5)理(3)英(3)音(2)美(2)体(4)技家(5)

Bさん 各教科の評定→国(2)社(2)数(2)理(3)英(3)音(5)美(4)体(4)技家(5)

○素内申…各教科の評定を単純に足し算したものです。都立高校の推薦入試や私立入試で使われます。最大、9教科×5で45になります。

Aさん: $3+3+5+3+3+2+2+4+5=30$

Bさん: $2+2+2+3+3+5+4+4+5=30$ どちらも素内申は同じ

○換算内申…都立高校の一般入試のみ用いるものです。学力検査を行う教科以外が2倍されます。

芸術系・体育系等の一部の学校以外は5教科で学力検査があるので、基本的には「音・美・体・技家」の4教科で評価が2倍されます。

Aさん:5教科の合計は $3+3+5+3+3=17$ 。残りの4教科は $(2+2+4+5)\times 2=26$ 。

換算内申は $17+26=43$ 。

Bさん:5教科の合計は12。残りの4教科は2倍して36。換算内申は48となり、素内申が同じAさんよりも、換算内申は5高くなります。

※多くの都立高校の一般入試では、この換算内申を300点満点に計算し、当日の学力検査点を700点満点に計算したものと、ESAT-Jの結果20点満点を合計して、1020点満点で総合得点を出します。

※学力検査点は、一部の学校を除いて、国・社・数・理・英の5教科で行われるため、そのままでは500点満点です。これを700点満点に計算するので、実際の得点 $\times 1.4$ で求めることができます。

※私立入試や都立推薦入試では、換算内申は使いません。

～都立高校総合得点(学力検査の得点700点+調査書点300点の場合)の計算の仕方～

〈学力検査の得点〉

1 学力検査を実施する5教科(国社数理英)の当日得点の合計を1.4倍します。

国語	社会	数学	理科	英語	合計	1.4倍

〈調査書点〉

2 学力検査を実施する5教科(国社数理英)の評価をそのまま足します。

国語	社会	数学	理科	英語	合計
					(ア)

3 学力調査を実施しない4教科(音・美・保体・技家)の評価の合計を2倍にします。

音楽	美術	保体	技家	合計	2倍
					(イ)

4 (ア)+(イ)が換算内申です。

5 **調査書点 $300 \times \text{換算内申} \div 65$** で求めることができます。(7:3の割合かつ学力検査が5教科実施の学校の場合)

6 学力検査の得点と調査書点を足したものが総合得点です。

7 さらに、スピーキングテストの結果20点満点が、総合得点に加算されます。

※中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)

「使える英語力」の育成、中学校で身に付けた「話すこと」の力の客観的評価等を目的として2022年から実施されているテストです。今年度は11月22日(日)に校外で行われます。(テストの結果をA・B・C・D・E・Fの6段階で評価し、それぞれに20点(A)・16点(B)・12点(C)・8点(D)・4点(E)・0点(F)を与えます。結果は都立高校の調査書に記載されます。

③ 一般入試(第二次募集・分割後期)

第二次募集は、第一次募集で入学手続き者が募集人員に達しない場合に行います。したがって、必ず実施するとは限りません。分割後期は、昼夜間定時制の一部の学校で、あらかじめ前期と後期に分けて募集を行う場合に実施されます。換算内申を用い、学力検査・調査書の点数(スピーキングテストを含む)を用いて総合的に可否を判断します。学力検査は全日制高校では3教科になります。

5 私立高校の入試制度について

(1) 私立高校の入試の種類

私立高校の入試にも、都立高校と同じく、推薦入試と一般入試があります。推薦入試は都内私立高校の約9割で実施しています。以下に示すのは私立高校の一般的な入試制度の例ですが、私立高校の入試のしくみはそれぞれの高校により異なりますので、説明会に参加して情報を集めることが大切です。

以下の制度の名称は高校によって異なることがあります。ここでは一般的な名称を記載しています。

推薦入試 《 面接・作文・適性検査等 》

1/22～

一般入試

2/10～

→ 制度利用あり

→ 第一志望優遇制度《 学力検査・面接等 》

→ 併願優遇制度 《 学力検査・面接等 》

→ 制度利用なし 《 学力検査・面接等 》

※ 日程は例年のものです。特に都内の私立一般入試（併願優遇も含む）は2/10～2/12の3日間に集中して行われます。都外の私立や一部の私立は別日程で行われることもあるので必ず募集要項やHPで確認してください。

(2) 選考方法について

① 推薦入試（「単願推薦」とよばれることもあります）

推薦入試は、その高校が第一志望で高校側の示す推薦基準（条件）を満たしており、在籍している中学校校長の推薦・承認が得られた場合に利用できます。

合格したら必ず入学することが条件制度なので、合格した場合は他校を受験することはできません。

すべての高校が推薦入試を行っているわけではありませんが、推薦入試実施校は年々増加しています。都内の私立高校では、募集人員の定員の50%まで推薦入試で入学者を決定している学校もあります。スポーツ推薦もこの中に入りますので、該当するスポーツの能力や結果にかかわらず、中学校長の推薦が必要です。

※英検・漢検・皆勤・生徒会役員・専門委員長・部長・都大会出場などの実績があると加点してくれる場合があります。英検や漢検は、CBT といったインターネット上で受検できるタイプもあるので、早めに準備しておきましょう。

※事前に中学校と高校の間で「入試相談」を行う学校が多く、基準に達していれば、合格の可能性が高まります。（基準をただの出願資格とし、当日点で選考を行う学校もあります）

※推薦入試は受験者全員が合格するわけではありません。残念ながら不合格となる場合もあります。

② 一般入試

一般入試とは、推薦入試以外で高校を受験するものを指します。

例年東京都内の私立高校は2月10日からの3日間に集中して行われます。一部の学校や他県の学校などでは受験日が異なりますので、募集要項などで確認が必要です。学力検査、調査書、面接などを総合的に判断して合否を決めますが、当日の学力検査の比重が高いのが一般的です。一般入試には学校によって様々な制度が設けられています。



○第一志望優遇制度

推薦基準に達していないが、その私立高校が第一志望である場合、合格したら必ず入学することを条件に学力検査の入試得点に加点する制度のことです。評定等の基準があったり、入試得点で1教科でも極端に点数が低い場合は不合格になったりする場合もあります。事前に学校間での「入試相談」を行う場合があります。

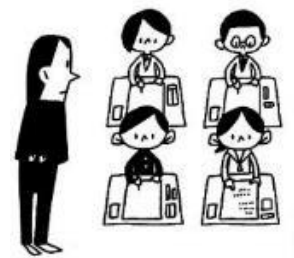
○併願優遇制度（第二志望優遇制度）

他校が第一志望で、その学校が不合格になった場合は必ず入学することを条件に入試得点に加点するなどの優遇制度です。第一志望校を公立高校に限定する場合や私立高校も認める場合、他校の受験を第一志望校のみに限る場合と複数校認める場合など、高校によって異なりますので、募集要項や個別相談で確認する等、よく調べる必要があります。推薦と同様に評定等の基準がありますが、推薦入試に比べて高めに設定しているのが一般的です。なお、併願優遇でも英検等で加点になる場合があります。

都立高校を第一志望にする場合、第二志望の私立高校についてこの併願優遇制度を利用して受験する人が多いです。なおこの制度は、受験生の入学を確約するものではありません。当日の得点や面接での評価により不合格になる場合もあります。

この制度を利用した場合、他の受験校が不合格であれば必ず入学しなければならず、都立高校の二次募集・分割後期募集や他の私立高校の二次募集等を受験することはできません。

事前に学校間での「入試相談」を行う場合がほとんどです。併願優遇制度の内容や合格の可能性は学校によって様々です。



上記の制度を使わない、一般受験（いわゆるフリー受験）もあります。定員に満たない私立高校では、二次募集が行われる場合もあります。

6 評価・評定の出し方

評価・評定とは、学習の実現状況を把握するものであり、学習活動を励まし、資質・能力を伸ばすことを目的としています。本校では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について、毎学期末に通知表に記載します。

それぞれの観点について、以下のように A・B・C の三段階で評価します。

基準	達成度 (%)	評価
十分満足できる	80%以上	A
おおむね満足できる	50%以上 80%未満	B
努力を要する	50%未満	C

また、これらの観点別の評価を合わせて、学習状況全般をまとめたものを数値で表したのが「評定」です。評定については、以下のように 5 段階で行います。

基準	達成度 (%)	評定
十分満足できるもののうち、特に高い程度のもの	90%以上	5
十分満足できる	80%以上 90%未満	4
おおむね満足できる	50%以上 80%未満	3
努力を要する	20%以上 50%未満	2
一層努力を要する	20%未満	1

それでは、実際の評価・評定の出し方を、例を挙げてもう少し詳しく見てみましょう。

観点	評価材料	満点	実際の得点例	合計点	達成度	評価	評定
知識・技能	実験レポート(15点) 小テスト(25点) 定期考査(40点)	80点	実験レポート(7点) 小テスト(17点) 定期テスト(40点)	64点	80%	A	4
思考・判断・表現	小テスト(40点) 定期考査(60点)	100点	小テスト(22点) 定期テスト(60点)	82点	82%	A	
主体的に学習に取り組む態度	ノート点(60点) 小テスト(45点) 課題への取り組み(45点)	150点	ノート点(56点) 小テスト(42点) 課題への取り組み(43点)	141点	94%	A	

この例では、「知識・技能」が 80 点満点中 64 点なので、達成度は 80%⇒つまり、評価は A となります。「思考・判断・表現」も同様に、100 点満点中 82 点で達成度は 82%⇒評価 A。「主体的に学習に取り組む態度」は、150 点満点中 141 点で達成度は 94%⇒評価 A。

3つの観点全てが A となりましたが、達成度の平均は、 $(80\%+82\%+94\%) \div 3 = \text{約 } 85\%$ となり、評定は「80%以上 90%未満」の「4」となります。このように、全ての観点が「A」でも、達成度の平均が 90%を超えていなければ、評定が「4」になります。

「2」は「20%以上 50%未満」、「3」は「50%以上 80%未満」とそれぞれ範囲が広いのも注意が必要です。達成度の平均が 50%の人と 79%の人は両方とも「3」になります。「テストの点数が上がり、レポート

等の評価も上がっているのに、ずっと『3』のまま」、という場合は、達成度は上がってはいるものの、80%以上にはなっていない、ということです。

テストも観点別に小計を取って評価していくので、例えば【「知識・技能」が60点、「思考・判断・表現」の問題が40点の配分】だった場合、合計90点取ったとしても、10点の失点が全て「知識・技能」の問題だと、「60点満点中50点」で「知識・技能」のテストの項目は「83%」の達成度になってしまいます。

ここに記載した内容はあくまで一例なので、実際には、定期考査をはじめ授業中におけるレポートや小テスト、学習課題への取り組み状況など多くのものを評価材料としています。テストで100点取れていたとしても、レポート等の評価も全て合わせて90%以上の達成度にならないと「5」にはなりません。

5月1日にクラスルームに配信された「学習の手引き」をよく読んで、各教科の学習のポイントや評価材料を理解して授業に臨むとよいです。私立高校については、推薦の基準に評定の数値が含まれることも多いので、昨年度の評定を確認し、今の自分にできる学習への取り組み方を見直してみましょう。

また、3年生については、1・2学期の成績を総合的に評価・評定し、2学期の成績として通知表に記載しています。基本的に、この評定が調査書に記載されます。11月末に仮の評定を伝え、12月の三者面談で受験校決定の予定です。

7 奨学金について

奨学金には、卒業後に返還が必要な「貸与型」だけでなく、返還の必要のない「給付型」もあります。対象の条件を満たし、審査を通過することで貸与や給付を受けることができます。

学校に届くお知らせについては、進路だよりや進路のクラスルーム、学年の廊下の掲示板を中心にお知らせしていきます。他にも様々な奨学金があるので、調べてみてください。「奨学金を考えています」といった簡単な報告で構いませんので、早めに担任に相談してください。

実際に申し込む奨学金が決まったら、詳細な情報を集め、必要書類をご用意ください。学校にお知らせの届かない、一般企業の奨学金にも、申し込みの際に中学校の書類が必要となる場合もあります。また、学校を通してしか申し込めない奨学金もあります。

現在、学校にお知らせが届いているのは以下の三つです。

- ・あしなが高校（高等学校）奨学金
- ・交通遺児育英会奨学金制度
- ・東京都育英資金奨学生（8月27日（木）締め切り…必要書類もあるので、可能な限り三者面談までにお伝えください）

奨学金情報は進路だよりに掲載します。詳細は進路のクラスルームを見てください。自分が対象者かどうか確認してください。

東京都社会福祉協議会の「受験生のあなたへ 金銭的な理由で塾や受験を諦めてほしくない!」というリーフレットも5月に配布しました。塾費用や受験料の貸付について、三鷹市の窓口が記載されています。内容をご確認ください。

8 ESAT-Jの申し込みについて

11月22日（日）に校外で実施されるESAT-Jは、各家庭で申し込みをしていただく必要があります。本校の定めた申し込み期間は、**7月2日（木）～三者面談まで**です。申し込みが完了したら、後日配布する「ESAT-J YEAR3 申し込み完了報告（夏休み三者面談当日 締切）」をご提出ください。例年、三鷹中等教育学校等の近隣の会場になることが多いですが、特別な配慮を申請する場合は会場が遠くなる可能性が高いので、ご注意ください。

9 進路決定に向けて

(1) 調べる

自分の興味関心に合った進路先を調べていきましょう。明確なものがイメージできない人は、より具体的な視点で考えてみるとよいかもしれません。以下、高等学校に進学する場合を例にします。

【例】・通学時間はどのくらいまでを目安にするのか？(片道30分？1時間？)

- ・交通手段は？(自転車？バス？電車？ 電車を利用するなら上り？下り？)
- ・公立か私立か？(男子校・女子校・共学校？)
- ・どんな校風の学校か？(落ち着いている？活発？自由？管理型？)
- ・卒業後の進路は？(大学進学を目指す？専門に学んだことを生かして就職？)
- ・どのようなスタイルで学びたいか？(全日制？ 定時制？ 通信制？)

条件に合う学校を、インターネットや市販の「受験案内」冊子(学校図書館や各教室にも置いてあります)、パンフレットなどの資料により複数校探し出しましょう。

都立高校であれば「だから都立高」というサイトで検索可能です。都立高校学校魅力PR動画「まなびゅ〜動画」も参考になります。私立高校も、インターネットで条件を入力すれば都内の 学校を検索できます。進路希望調査の中で、「〇〇が有名な学校を教えてください」「〇〇部がある学校が知りたいです」といった質問もありましたが、学校が持っている情報とみなさんが調べられる情報に大きな差はありません。ぜひ、インターネットや本で調べてみてください。

インターネット上の口コミ等は不確かな情報や偏った情報が載っている場合があります。情報の真偽を確かめるためにも、自分の目で確かめてみるとよいです。そのためにも、具体的な学校名が出てきたら、ぜひ見学に行きましょう。「実際に毎日通いきれるのか」、「校風が自分に合っていそうか」などを一緒に話しながら、保護者の方とともに検討していきます。

(2) 訪問する

進路のクラスルームや各クラスの配布資料にあるように、そろそろ、各校で学校見学や説明会が開催されます。まだ具体的な学校名が決まっていない人は、合同説明会がおすすめです。様々な学校のブースがあるので、学校ごとの特徴を一度に知ることができます。毎年夏休みに開催する都立の合同説明会「都立 EXPO」は、昨年度入場規制になるほどの混雑だったそうです。他にも様々な説明会があるので、インターネットで検索したり、クラスルームや配布資料を良く見たりして、情報を集めましょう。

学校見学をする上で、時間のある夏休みは大きなチャンスです。また、学園祭は9月あたりにピークを迎えます。修学旅行と重なる場合があるので、早めに日程を確認しておきましょう。

私立高校の中には、個別相談を受けることが入試の条件や、加点になる学校があります。10月の第3回以降の進路希望調査でも見学の有無を確認するので、実際の雰囲気を知るためにも、受験する可能性のある学校は必ず見学に行くようにしましょう。

◎学校見学に参加する上での注意

- ①保護者の方と必ず訪問先を確認しましょう。説明会の参加は、保護者同伴が望ましいです。
- ②予約の必要性を確認しましょう。HPに詳細が載っている場合が多いです。予約は、意識を高めるためにも、生徒の皆さんが自分で行うことをお勧めします。学校によっては予約が取りづらい場合もあるので、早めに確認しておくといいです。
- ③担任の先生にも情報を共有しておきましょう。(進路希望調査を通してで構いませんが、できれば口頭でも教えてください。)
- ④服装は標準服で、念のため身分証明の生徒カードも持参するとよいでしょう。
- ⑤個別相談コーナーがあれば利用しましょう。特段そういったコーナーが無い場合も、相談してみると対応してくださる場合があります。特に私立高校の推薦(併願優遇)希望の場合は、必ず個別相談を受けましょう。

※入試の際に、個別相談を受けていることが義務付けられている場合もあります。

- ⑥相談で聞いたことはメモを取るようにし、担当の先生のお名前も控えておきましょう。
- ⑦普段から気を付けるべきことではありますが、挨拶、言葉遣い、態度に注意しましょう。
- ⑧トラブルに繋がるおそれがあるので、高校生や他校生と不用意に接触しないようにしましょう。

HPをこまめにチェックしていたとしても、人気の学校では、抽選で外れてしまい説明を聞くことができない場合もあります。その場合は、以下の方法もあります。

- ・複数の機会が設けられている場合は他の日程も申し込んでみる。
- ・学校公開日に見学に行ってみる。(普段の様子を知ることができます。)
- ・学校の周辺に行ってみる。(登下校中の様子や周囲の雰囲気等、行ってみて分かることがあります。)

平日は中学校の授業があるのでなかなか難しいかもしれませんが、土曜日や三中の振替休業日などに、予定を確認して行ってみるとよいでしょう。高校見学や説明会での三中の早退や欠席は、基本的に出席扱いにはなりませんので注意してください。

◎見学の際にチェックするポイント

①所要時間

3年間通う学校なので、事前に公共交通手段をしっかりと調べ、実際にその方法で向かってみるとよいでしょう。

②学校の雰囲気

休業日で、高校の在校生がいない場合は仕方ありませんが、放課後や登下校の様子、部活動を見学できる場合は、ぜひ雰囲気を覗いてみましょう。最近は学校公開も増えており、実際の授業や生徒の様子を見ることができるので、大いに参考になると思います。

③設備や環境

自分の希望する学科やコースの学習設備や周辺の環境も見てください。(校庭・体育館・教室・図書館・トイレ・自習室・学食など)

学校周辺の環境も重要です。①の交通手段とも合わせて確認しておきましょう。

④入試制度や学費

生徒・保護者対象の説明会では、入試の要項や学費に関する資料が配られるはずですが、入試制度も学費も学校によって様々なので、資料は必ず確認しましょう。わからないことは積極的に個別相談で質問しましょう。

私立高校の場合、特に以下の点を必ず確認してください。

- ・学校間の入試相談の必要性(推薦、併願優遇、第一志望優遇について)
- ・併願優遇制度の詳細(公立併願[公立高校が第一志望の場合のみ利用できる]か公私併願[第一志望が公立でも私立でも利用できる]か/第一志望校以外の学校の受験は認められているか)
- ・第一志望以外の学校だった場合、第一志望校の結果が出るまで延納は認められるか。また、延納届が必要か。(併願優遇制度ではないフリー受験でも、延納してくれる場合もあります。)

都立高校についても、文化・スポーツ特別推薦や海外帰国生徒等対象入試を受検する場合等、学校ごとに推薦書の書き方や必要書類等が異なる場合があるので、確認しておきましょう。

⑤進路・就職の状況

高等学校卒業後の進路状況を確認しておきましょう。進学先や就職先、進学と就職の割合等、3年後の進路選択を見据えて情報を集めましょう。また、大学への指定校推薦があるのか、大学附属の高校は、何割くらいの生徒が附属の大学に進学できるのか、といったところも確認しておくといいです。

(3) 精選する

まず、自分の将来や、希望する高校生活を具体的にイメージして、いくつかの候補校に絞ります。次に、自分の学力と照らし合わせてみましょう。学力検査点は、復習確認テストや過去問を参考にするとおおよその力が分かります。試験当日に体調が悪く十分な力が発揮できないということも考えられます。このときの模試では取れたから……と自分の実力を過信し過ぎないようにしましょう。自分の行きたいと思う学校の中で、現在の学力の状況や評定で十分に合格できそうな学校は必ず見つけておくようにしましょう。

調査書点については、一学期の成績を参考に、二学期の成績（学力の状況や評定）について、「上がった場合」・「変わらなかった場合」・「下がってしまった場合」の3パターンの可能性を考えて、この場合ならこの学校、と考えておくと直前になって慌てずに済むかと思います。

夏休みは「受験の天王山」とよく言われますが、勉強に勤しむだけでなく、学校見学など、進路決定に向けた準備もぜひ進めておきましょう。大切なのは、「自分に合った学校」を探すことができるか、ということです。自分自身のことをよく見つめ直し、よりよい生き方やなりたい自分といった将来像を考えて、進路決定に向けて主体的に行動を起こしていきましょう！

人生には解決策などない。あるのはただ、前進してゆく力だけだ。その力を創造しなければならない。そうすれば解決策などひとりで生まれてくる。

——サン・テグジュペリ『夜間飛行』

悩んだら、情報を集めたり学習に取り組んだりして、目の前のことに真剣に取り組んでみましょう。きっとその先に、あなただけの進路を切り拓いていけるはずです。みなさんの頑張りを応援しています。

※例年7月配布

3

都立高校等の種類と内容

課程

- 1 全日制課程・・・朝から午後までの日中に授業があります。
- 2 定時制課程・・・夜間、その他定められた時間帯に授業があります。
- 3 通信制課程・・・自宅等で学習し、レポートなどの添削指導を受けながら、定められた日(月2日程度)に登校し、面接指導を受けます。

学年制と単位制

- 1 学年制・・・学習する教科・科目が、学年ごとに定められており、その学習成果が認められると単位が与えられ、次の学年に進級する制度です。全日制は3年、定時制は4年(一部は3年)を修了すると、卒業が認められます。
- 2 単位制・・・学年の区別がなく、3年間(又は4年間)の中で必修(必履修)科目の他に自分に適した教科・科目を選択し、その学習成果が認められ、入学から卒業までに決められた単位数を修得すれば卒業できる制度です。

都立高校の学科

※ 令和8年度入試で募集を行う予定の学科を記載しています。

1 普通科

国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報の各教科を中心に学習します。各教科は、更にいくつかの科目に分かれています。学校が定めた教育内容に従い、定められた科目や自分で選択した科目を学習します。大学・短大・専門学校への進学や就職など、幅広い進路に対応します。

2 普通科(コース制)

普通科の一部ですが、皆さんの興味・関心や希望に応じられるよう、学習内容の重点化を図り、様々な選択科目を設けています。1年次から語学系、美術系のコースに分かれて学習します。深川高校(外国語コース)、片倉高校(造形美術コース)、松が谷高校(外国語コース)、小平高校(外国語コース)があります。

3 総合学科

共通科目から専門科目まで幅広い選択科目の中から、自分の特性や進路希望に合った科目を選択し、系統的、専門的に学習します。自分の生き方や将来の進路を考える「産業社会と人間」を全員が学習し、科目選択に生かします。

4 農業に関する学科

農業の各分野で活躍できる技術者の育成を目指して、農業生産物の栽培や飼育を通し、自然に親しみながら専門的な知識やバイオテクノロジーなどの技術を身に付けます。

5 工業に関する学科

工業の各分野で活躍できる技術者の育成を目指して、専門的な知識やものづくりの技術・ハイテク技術などを身に付けます。

6 工業に関する学科(デュアルシステム科)

企業でものづくりの長期就業訓練を授業として受け、実践的な技術・技能を身に付けます。企業と生徒の合意により、卒業後、就業訓練先の企業に就職することもできます。

7 科学技術科

科学や技術について幅広く学び、卒業後、理系の大学等において専門性を高めるための基礎力を身に付けます。科学技術高校及び多摩科学技術高校に設置しています。

8 商業に関する学科 (ビジネス科・商業科)

経理、情報処理などの商業の分野や国際化に対応する分野で活躍できる人材の育成を目指して、専門的な知識や技術を身に付けます。

9 ビジネスコミュニケーション科

激変する社会環境の中で、自立することのできる人材の育成を目指します。英語や実践的なビジネス科目を学び、社会科学系及び人文科学系大学への進学を目指します。大田桜台高校及び千早高校に設置しています。

10 情報に関する学科

高度情報通信社会の諸課題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てるため、情報の各分野に関する知識と技術を習得します。新宿山吹高校に設置しています。

11 産業科

生産・流通・消費の各過程の関連性を学び、起業家精神を育成します。従来の学科の枠を超えた新たな学科として、橘高校及び八王子桑志高校に設置しています。

12 水産に関する学科

海洋について様々な視点から学び、海洋課題に対応できる人材を育成します。大島海洋国際高校に設置しています。

13 家庭に関する学科

家庭生活に関する専門科目の学習を行うことにより、衣食住、保育、看護や介護などの知識や技術を身に付けます。赤羽北桜高校、農業高校、瑞穂農芸高校及び忍岡高校に設置しています。

14 福祉に関する学科

各種福祉施設、病院、保育園などで実習や体験学習を行いながら人間尊重の精神をしっかりと身に付け、社会の援助者として行動できる人材を育成します。赤羽北桜高校及び野津田高校に設置しています。

15 理数に関する学科

理数系の幅広い素養と情報活用能力等を高いレベルで併せ持ち、新しい価値（イノベーション）を生み出すことのできる人材を育成します。科学技術高校及び立川高校に設置しています。

16 芸術に関する学科

音楽、美術、舞台表現に関する専門科目の学習を行うことにより、感性と表現力を身に付け、将来にわたって芸術の発展に寄与する人材の育成を目指します。総合芸術高校に、「音楽科」、「美術科」及び「舞台表現科」を設置しています。

17 体育に関する学科

体育・スポーツに関する専門科目の学習を行うことにより、保健体育に関する知識・技能を身に付けます。共通科目の他に、学校によりバレーボール、バスケットボール、サッカー、体操、陸上、水泳、柔道、剣道などの専攻に分かれた専門の学習を行います。駒場高校及び野津田高校に設置しています。

18 国際関係に関する学科

国際関係、日本の伝統文化、異文化理解などに関する学習や、自分が設定した課題を深く学ぶ課題研究型の学習を行います。また、外国語（英語など）の高度な運用能力を身に付けることを目指します。こうした学習を通して、豊かな国際感覚を身に付け、積極的に国際社会で行動できる人材を育成します。

国際高校に、英語のほか、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語及び韓国語などを学ぶことができる「国際学科」を設置しています。また、海外の大学への進学を目指すためのコース「国際バカロレアコース」を設置しています。

19 併合科

二つの学科を一つの学級に編制している学校もあります。これを、併合科としています。全日制では、大島高校（農林・家政）、三宅高校（農業・家政）、八丈高校（園芸・家政）があります。定時制では、瑞穂農芸高校（普通・農業）があります。

普通科

〔進学指導重点校〕
日比谷、戸山、青山、西、八王子東、立川、国立
〔進学指導特別推進校〕小山台、駒場、町田、小松川
〔進学指導推進校〕
三田、竹早、城東、豊多摩、北園、江北、江戸川、武蔵野北、
調布北、小金井北、日野台、上野、昭和
〔エンカレッジスクール〕蒲田、足立東、東村山、秋留台
上記以外の普通科の高等学校(右ページ下部に別掲)

コース制

深川(外国語)、片倉(造形美術)
松が谷(外国語)、小平(外国語)

農 業

園芸、農芸、農産、農業、瑞穂農芸

工 業

工芸、蔵前工科、墨田工科、総合工科、杉並工科、
荒川工科、足立工科、府中工科、町田工科
〔デュアルシステム科設置校〕
葛西工科、多摩工科
〔デュアルシステム導入校〕
北豊島工科、葛西工科(再掲)、田無工科
〔エンカレッジスクール〕練馬工科、中野工科

科学技術科

〔進学指導推進校〕多摩科学技術
科学技術

ビジネス科

芝商業、江東商業、第三商業、第一商業、第四商業、
葛飾商業、第五商業

ビジネスコミュニケーション科

大田桜台、千早

産 業 科

橘、八王子桑志

水 産

大島海洋国際

家 庭

赤羽北桜、農業、瑞穂農芸

福 祉

赤羽北桜、野津田

理 数

〔進学指導重点校〕立川
科学技術

体 育

駒場、野津田

国際関係

〔進学指導特別推進校〕国際

併 合 科

大島(農林・家政)、三宅(農業・家政)、八丈(園芸・家政)

普 通 科

〔進学指導特別推進校〕新宿、国分寺
〔進学指導推進校〕墨田川
忍岡、美原、深沢、芦花、飛鳥、板橋有徳、大泉桜、翔陽、上水

工 業

〔デュアルシステム導入校〕六郷工科

家 庭

忍岡

芸 術

総合芸術

総合学科

晴海総合、つばさ総合、世田谷総合、杉並総合、王子総合、
葛飾総合、青梅総合、町田総合、東久留米総合、若葉総合

高 等 学 校	定 時 制 課 程	学 年 制 (夜 間)	普 通 科	大崎、大森、松原、豊島、足立、南葛飾、江戸川、 葛西南、農業、神代、町田、福生、五日市、大島、八丈
			農 業	園芸、農芸、農産、農業
			工 業	工芸、墨田工科、総合工科、中野工科、荒川工科、 本所工科、小金井工科
			商 業	第三商業、足立、第五商業
			併 合 科	瑞穂農芸(普通・農業)
			産 業 科	橘
	単 位 制	昼 夜 間	普 通 科	一橋、新宿山吹、浅草、荻窪、八王子拓真、砂川
			情 報	新宿山吹
			総合学科(チャレンジスクール)	六本木、大江戸、世田谷泉、穂ヶ丘、桐ヶ丘、小台橋、 立川緑
		夜 間	普 通 科	六郷工科、飛鳥、板橋有徳
			工 業	六郷工科
			総合学科	青梅総合、東久留米総合
	通 信 制 課 程		普 通 科	一橋、新宿山吹、砂川

別掲 全日制学年制普通科高等学校

<23区内にある学校>

向丘、日本橋、本所、東、深川、大崎、八潮、目黒、大森、田園調布、雪谷、桜町、千歳丘、松原、
広尾、鷺宮、武蔵丘、杉並、豊島、文京、竹台、板橋、大山、高島、井草、石神井、田柄、練馬、光丘、
青井、足立、足立新田、足立西、淵江、葛飾野、南葛飾、葛西南、小岩、篠崎、紅葉川

<多摩地区にある学校>

片倉、八王子北、富士森、松が谷、多摩、府中、府中西、府中東、拝島、神代、調布南、小川、成瀬、
野津田、山崎、小平、小平西、小平南、日野、南平、東村山西、福生、狛江、東大和、東大和南、清瀬、
久留米西、武蔵村山、永山、羽村、五日市、田無、保谷

<島しょにある学校>

大島、新島、神津、三宅、八丈、小笠原

参考

高等専門
学 校

産業技術高等専門学校

※東京都公立大学法人が所管しています。

〔資料2〕進路先一覧

令和8年3月卒業生

都立(公立)高等学校
青山 井草 園芸 狛江 清瀬 工芸 国立 国際 国分寺 小平南 駒場 鷺宮 桜町 産業技術高専 石神井 新宿山吹 神代 杉並 杉並工科 杉並総合 世田谷泉 総合芸術 立川 調布北 調布南 千歳丘 戸山 豊多摩 中野工科 西 農業 日野台 深沢 府中 文京 八王子東 松原 稔ヶ丘 武蔵野北 芦花
私立高等学校<共学> ※他県
郁文館グローバル 岩倉 英明フロンティア 関東国際 錦城 錦城学園 國學院 國學院久我山 国際基督教 大 駒場学園 サレジオ高専 実践学園 自由学園 自由ヶ丘 芝国際 聖徳学園 昭和第一 昭和第一学園 昭和鉄道 杉並学院 駿台学園 成蹊 大成 大東学園 拓殖大第一 多摩大学目黒 中央大学杉並 東亜学園 東海大学菅生 東京 東京文華 東京立正 日本工業大学駒場 日本大学櫻丘 日本大学鶴ヶ丘 文化学園大学杉並 堀越 武蔵野大 明星 明星学園 明治学院 目黒学院 早稲田実業 ※天理 ※羽黒
私立高等学校<男子> ※他県
※慶應義塾 佼成学園 早稲田高等学院
私立高等学校<女子>
白梅学園 日本大学豊山女子 富士見丘
国立高等学校・他県立・その他
三崎(愛媛)
広域通信制・専修学校・その他
あずさ第一 おおぞら N 高 NHK 学園 クラーク国際記念 野田鎌田学園杉並 明聖 未来
特別支援学校
永福学園

令和7年3月卒業生

都立高等学校
青山 井草 上野 園芸 小金井北 国立 国際 国分寺 工芸 駒場 鷺宮 石神井 新宿 神代 杉並 杉並工科 杉並総合 世田谷泉 総合芸術 第一商業 竹早 田無 多摩科学技術 調布北 調布南 千歳丘 豊多摩 西 広尾 府中 府中工科 府中東 松原 稔ヶ丘 武蔵野北 芦花
私立高等学校<共学> ※他県
関東国際 錦城 啓明学園 国士館 国立音大 駒場学園 サレジオ高専 実践学園 聖徳学園 昭和第一学園 杉並学院 専修大学附属 大成 大東学園 中央大附属 中央大学杉並 帝京八王子 東亜学園 東京実業 東京農業大学第一 東京立正 新渡戸文化 日工駒場 日本大学櫻丘 日本大学鶴ヶ丘 八王子学園八王子 堀越文化学園大学杉並 武蔵野大学 朋優学院 明星学園 明星 ※早稲田佐賀
私立高等学校<男子>
科学技術学園 日本学園 保善
私立高等学校<女子>
共立第二 佼成学園女子 女子美術大学付属 潤徳女子 白梅学園 日女体二階堂
広域通信制・専修学校・その他
おおぞら R 高 NHK 学園 クラーク国際記念 野田鎌田学園杉並 明聖 ルネサンス
特別支援学校
永福学園 府中けやきの森学園

2026年度入試を予定されている
中学3年生の保護者のみなさま

東京都内に住む方々を 高校へいくための
対象とした

奨学金・貸付金等のご紹介

いよいよ中学校生活も最後の一年を迎えました。高校進学にあたっては、いろいろな準備が必要ですが、学費の用意も大切な準備の一つです。

ここでは、東京都内に住む方々を対象として、高校進学のための費用を貸付ける貸付金や奨学金、または公的な助成制度などをご紹介します。詳しい内容については、それぞれの実施団体窓口にお問い合わせください。

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

公立高校は、世帯の収入状況に応じ就学支援金が授業料に充当されます。私立高校も世帯の収入状況により就学支援金制度に加え、授業料軽減助成金などの公的な助成が利用できます。また、非課税世帯や生活保護世帯向けの制度、ひとり親世帯向けの制度など、該当する世帯であれば活用できる制度もあります。

実際、高校に進学すると1年間でどのくらいお金がかかるのでしょうか。

公立	私立																												
(※)参考 東京都教育委員会ホームページより (※以外) 令和5年度文部科学省「子供の学習費調査」より <table> <tr> <td>入学金</td><td>5,650円(全日制の専修)</td></tr> <tr> <td>授業料(就学支援金充当分を除く)</td><td>4万5千円</td></tr> <tr> <td>授業料以外の学校納付金(PTA会費など)</td><td>3万5千円</td></tr> <tr> <td>修学旅行・遠足・見学費、図書(教科書など)・学用品</td><td>9万8千円</td></tr> <tr> <td>制服・通学費</td><td>9万7千円</td></tr> <tr> <td>教科外活動費(クラブ活動などの費用)他</td><td>4万9千円</td></tr> <tr> <td>おおよその必要総額</td><td>32万9千円</td></tr> </table>	入学金	5,650円(全日制の専修)	授業料(就学支援金充当分を除く)	4万5千円	授業料以外の学校納付金(PTA会費など)	3万5千円	修学旅行・遠足・見学費、図書(教科書など)・学用品	9万8千円	制服・通学費	9万7千円	教科外活動費(クラブ活動などの費用)他	4万9千円	おおよその必要総額	32万9千円	(※)参考 東京都生活文化局「東京都の私立学校行政(2025)年」より試算 (※以外) 令和5年度文部科学省「子供の学習費調査」より <table> <tr> <td>入学金</td><td>25万4千円*</td></tr> <tr> <td>授業料</td><td>50万円*</td></tr> <tr> <td>授業料以外の学校納付金(施設費など)</td><td>23万3千円*</td></tr> <tr> <td>修学旅行・遠足・見学費、図書(教科書など)・学用品</td><td>13万3千円</td></tr> <tr> <td>制服・通学費</td><td>14万2千円</td></tr> <tr> <td>教科外活動費(クラブ活動などの費用)</td><td>5万6千円</td></tr> <tr> <td>おおよその必要総額</td><td>131万8千円</td></tr> </table>	入学金	25万4千円*	授業料	50万円*	授業料以外の学校納付金(施設費など)	23万3千円*	修学旅行・遠足・見学費、図書(教科書など)・学用品	13万3千円	制服・通学費	14万2千円	教科外活動費(クラブ活動などの費用)	5万6千円	おおよその必要総額	131万8千円
入学金	5,650円(全日制の専修)																												
授業料(就学支援金充当分を除く)	4万5千円																												
授業料以外の学校納付金(PTA会費など)	3万5千円																												
修学旅行・遠足・見学費、図書(教科書など)・学用品	9万8千円																												
制服・通学費	9万7千円																												
教科外活動費(クラブ活動などの費用)他	4万9千円																												
おおよその必要総額	32万9千円																												
入学金	25万4千円*																												
授業料	50万円*																												
授業料以外の学校納付金(施設費など)	23万3千円*																												
修学旅行・遠足・見学費、図書(教科書など)・学用品	13万3千円																												
制服・通学費	14万2千円																												
教科外活動費(クラブ活動などの費用)	5万6千円																												
おおよその必要総額	131万8千円																												

*学費の用意が難しい時は、奨学金や貸付金を利用する方法があります。



こちらで紹介する
「奨学金・貸付金」の種類

- ・住所が世帯のお子さんを対象とする
 - ◆東京都育英資金
 - ◆生活福祉資金(教育支援資金)
- ・ひとり親家庭のお子さんを対象とする
 - ◆母子及び父子福祉資金
- ・遺児家庭のお子さんを対象とする
 - ◆あしなが奨学金
 - ◆交通遺児育英会奨学金

※その他、各自自治体が類似の制度を行っている場合がありますので、お住まいの役所へご確認ください。

奨学金(貸与)・貸付金

国公立向け

- ・世界の収入状況等により国公立高校向けにはこのよう制度もあります。
- ★就学支援金
- ★奨学給付金

私立向け

- ・世界の収入状況等により私立高校向けにはこのような制度もあります。
- ◆入学金貸付金制度
- ★就学支援金
- ★授業料軽減助成金
- ★奨学給付金

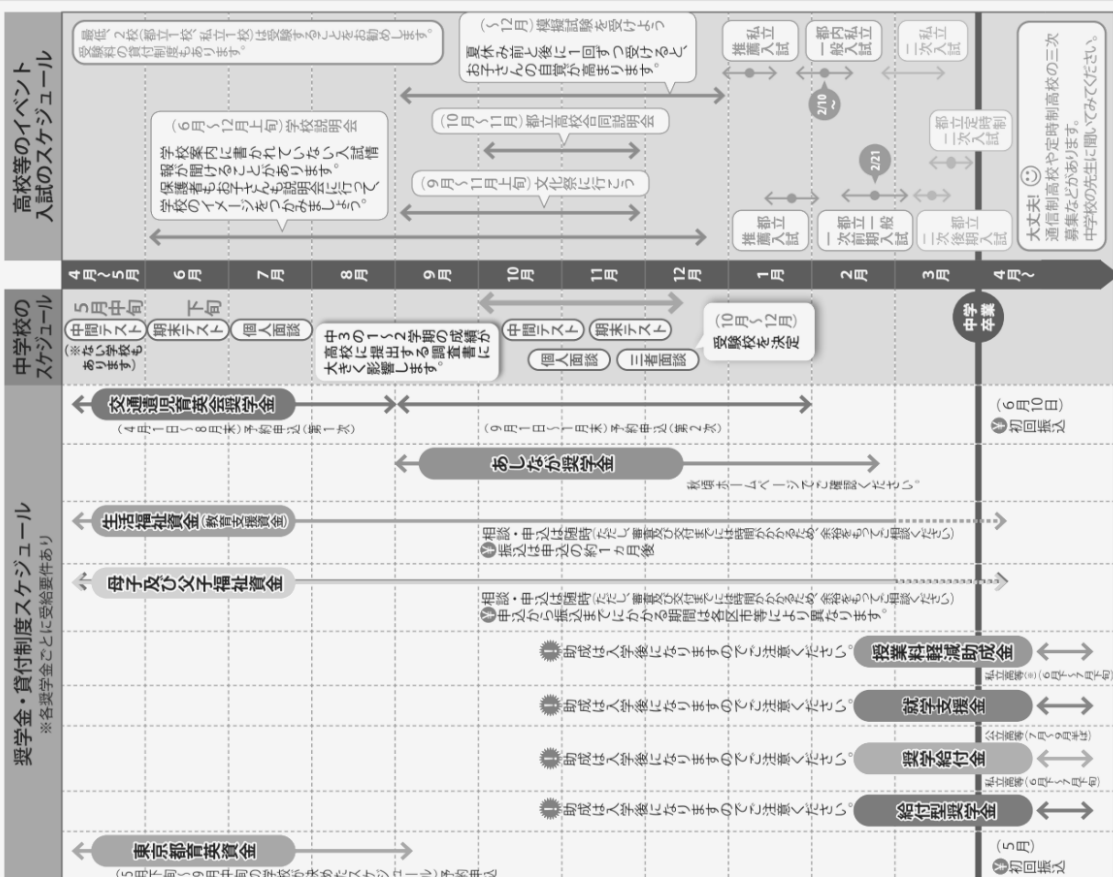
受給生

- ・高校に入る前にこのような制度があります。
- ・受給料や学習費の費用の貸付を利用する…
- 受給生チャレンジ支援貸付金

それぞれの詳細は次のページに

*例示ですので、詳細は各学校・申込先へご確認ください。
*2025年度の入試スケジュール所です。

高校進学に向けたおおまかなスケジュール例



【実行】社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
〒162-8953 新宿区神楽河原1-1 TEL 03(3268)7173
URL <https://www.tcsww.tvac.or.jp>
(こちらのページはホームページにも掲載しています)

2025年7月発行

